

防災を通じた絆づくり

～3日間生き延びるための『非常食づくりの体験活動』を通して～

益田市豊田公民館

1 西益田地区の概要

(1) 概要

西益田地区(豊田公民館の管轄地区)は、益田市の西南部に位置している田畑や山林の多い地域。面積は約 60 km²。益田市では2番目に広く、人口 4,096 人。1,730 世帯。

地域には、小・中・養護学校が各1校。保育園、病院、福祉施設や金融機関、スーパー等がある。自治会は、中心部の5自治会、周囲の中小12自治会の計17自治会。ご多聞にもれず人口減および少子高齢化が進み、高齢化率が40.7%の典型的な中山間の地域である。

(2) 特色

特色は、地域の中を高津川本流と支流の匹見川が流れていること。子どもたちはこの清流日本一に輝く川で、夏には川遊び、冬には堤防での凧上げを楽しんでいる。昭和58年から続いている「清流高津川いかだ流し大会」は今年で35回を重ね、地域の一大イベントとなっている。

ただ、この豊かな川を抱える自然環境も、近年多発しているゲリラ豪雨に見舞われれば、いつ被災地に変わるかわからない。

2 事業の趣旨

(1) テーマの設定

このような、防災も絡む地域課題に、「まちの元気づくり・人のつながりの再構築を図って取り組もう」と、今回、テーマ『防災を通じた絆づくり』を掲げた。

昨年実施したまちづくりのための全世帯アンケートでも、1「災害による孤立の危機感」2「少子高齢化の中でつながりの希薄化」の2点が浮び上がった。

各自治会で「自主防災」の取組も始まっているが、いざという時に近所や集落・町内会のつながりで災害に対応するには、やはり薄れつつあるつながりを取り戻し、再構築する取組が大切であると考えた。



(2) 取組の柱

柱は3つである。

1. 防災についての研修
2. 防災と絆づくりのPR活動
3. 3日間生き延びるための『非常食づくりの体験活動を通して』

地域が川沿いのため、災害時は地域が分断される。そのため行政支援が届くまでの間、近所や集落の力で生き延びる必要がある。そこで、絆づくりの目玉を、『非常食づくりの体験活動を通して』と設定した。

(3) 育成したい人材について

この取組で最終的にめざすのは、自治会の下部の町内会や班の単位でのリーダーの育成。地域のつながりを支えるのは、実際のリーダーである。輪番の町内会長や班長も重要であるが、実質実際のリーダー群をこの取組で発掘することを目指した。

そこで今年度は、つながりを取り戻し再構築するために、各地域で休眠中のつながりや各種サロンに『非常食づくりの体験活動』で切り込んだ。そこでまず行ったのが、『非常食づくりの体験活動』を指導することができ、かつ、つながりの大切さをアピールすることができる方(リーダー)の発掘であった。

3 具体的な取組内容

(1) 研修

- ア 西部県民センターによる研修
- イ 市の「防災・避難所ゲーム」研修
- ウ 防災 NPO 桂木さんによる研修
- エ 自主防災先進地の佐山地区視察
- オ 体験研修（公民館職員を含む）

(2) 防災と絆づくりの P R 活動

- ア 公民館活動とリンクしての炊出し体験会

イ 炊出し実践リーダー育成会

- (ア)材料が少なく、簡単で時間もかからないから、食事付会合で宣伝しよう。
- (イ)ぜひ自分の地域でも人を集めてやって、みんなに広めたいね。



- (ウ)この活動はいいね。食べながらいろいろな話題でなごむね。

- ウ 非常食や防災グッズ・毛布などの物品展示や配布などによる啓発

- エ 自治会へチラシによる広報宣伝

- オ 口コミによる広報宣伝

- (3) 非常食づくりの体験活動を通した絆づくりの実践。この活動に一番力を入れた理由は、食で集い、親睦の中でつながりを深めることをねらったからである。

- ア 初めて炊出しを体験しての感想

- (ア)ビニール袋でご飯が炊けるんだね。
- (イ)非常時には便利だから話題になるよ。これを目玉に会合ができるね。
- (ウ)こうやってみんなでワイワイつくって食べるのもいいね。

- イ 末端の集落での実践

- (ア)つくりながら会話が弾んだので、「いつもよりにぎやかだったね。」
- (イ)避難体験や非常食など話が盛り上が

った。

- (ウ)「〇〇ちゃん、次回は私も手伝うから声をかけて」とリーダーへ声かけ。

- (エ)「また、こういう会をしようやあ。」



4 評価と成果

- (1)「ビニール袋でつくる非常食づくり」の実施回数 22 回、参加者・のべ 480 名。

- (2)会食の中で、避難の体験談、保存食づくりの情報交換、防災グッズ情報などを話題に、和気あいあいの交流ができ、「絆づくり」につながったと考える。

- (3)【A 地域では B さんや C さんに声をかけたら人が集まる】というように、地域のリーダーが発掘できた。

- (4)備品を整備したので、「ビニール袋でつくる非常食づくり」だけでなく「うどん屋」「餅つき」「豚汁」などの活動もやり易くなり、いろいろな活動で「つながりづくり・絆づくり」が少しずつ進んでいる。

5 今後の課題と見通し

- (1)今後、末端地域での炊出し体験の広がりにより、絆づくりの進展が期待できる。

- (2)「ビニール袋・」だけでなく、多様な活動（例えば 100 歳体操など）とリンクさせ、魅力的な「集い」で人がつながるよう、いろいろとアイデアを出したい。

- (3)各地区リーダーのさらなる発掘と、地域を超えたリーダーのつながりづくりを。

（文責：豊田公民館長 内田 誠）